

## 令和6年度 学校マネジメントシート

学校名( 相可高等学校 )

### 1 目指す姿

(1)	目指す学校の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の夢をかなえる学校</li> <li>○地域と共に歩む学校</li> <li>○教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校</li> </ul>
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夢の実現を目指して自律的にかつ誠実に学び続けることができる生徒</li> <li>○変化や困難に対して柔軟にかつたくましく対応することができる力を有する生徒</li> </ul>
	ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の学力向上に努めるとともに、生徒の人権・健康・安全を守ることができる教職員</li> <li>○同僚性を発揮するとともに、互いに支えあうことができる教職員</li> </ul>

### 2 現状認識

(1)	学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	生徒、保護者、地域社会 ○学習指導・生徒指導・進路指導、部活動指導の充実 ○地域活性化への貢献 ○卓越した取組とその成果の継承	
(2)	連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<生徒> わかる授業、学力の定着・向上、部活動の充実、希望進路の実現、安心して学べる環境 <保護者> 学習指導・生徒指導・進路指導の充実 <地域社会> 地域活性化への貢献 <関係企業・団体等> 話題性によるイメージの向上	<保護者> 学校教育への理解・協力・支援、家庭での指導 <地域社会・企業等> 教育活動への理解・協力・支援、学習成果を発表・活用する機会の提供、部活動指導等への支援(地域部活動の設置)
(3)	前年度の学校関係者評価など	○中学校では、職員会議や校内研修は全員参加である。安全面から、会議や研修時に生徒だけで部活動をさせることはない。安全面的にどうなのか。 ○職員打ち合わせが週1回、かつオンラインということについて、顔を合わせる大切ではないのか。細かなニュアンスまで伝わるのか	
(4)	現状と課題	教育活動	○「わかる授業」のため、授業改善をさらに進める必要がある。 ○平日の家庭学習の時間が減少している。家庭学習時間について、クラスや学科間で大きな差がある。それぞれに合った指導を考察し、集中して学習に向かえるよう、生活習慣の見直しから始める必要がある。 ○体調を考えて登校する指導の徹底。 ○一部の生徒ではあるが、遅刻、身だしなみ面で指導が必要である。 ○進路実現に対する積極性の向上。

	学校運営等	<p>○職場内の情報共有 オンラインを活用した効果的な情報共有の仕組みを構築する必要がある。</p> <p>○校内研修の見直し 教職員が探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技術(技能)を学び続けられるよう、充実した研修の機会の確保に努める。その一方で時間的な負担が増加しないよう、研修の実施方法も検討する必要がある。</p> <p>「授業力の向上」を目的に実施している授業公開週間における互見授業について、形骸化していないか、検証と見直しが必要である。</p> <p>○全県的に少子化が進んでいる中で生徒募集と安定的な受験者の確保 魅力ある学校づくりの推進、本校での学びの見える化を進める必要がある。</p> <p>○働きやすい職場環境づくり 令和3年度と比較し、2年連続で年間休暇取得日数が減少し、時間外労働も増えている。ワークライフバランスを意識した職場集団作りをすすめなければならない。</p> <p>部活動ガイドラインを守ったうえで、外部指導者の活用や顧問の複数配置により過重労働時間の削減を目指す必要がある。部活動の地域移行については引き続き多気町と相談しながら方法を模索していく。特に「まごの店」の運営は、部活動として行っているものの、教育課程の延長線上に位置づけられる部活動であることから、学科の取組との関係性も深い。活動内容について、日程や内容等、日常の授業と調整しながら活動をすすめることで、過重労働の軽減につなげたい。</p>
--	-------	--

### 3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<p>○「夢の実現を目指して自律的にかつ誠実に学び続けることができる生徒」に関して 生徒が学ぶことに興味・関心を持ち、自分の将来と結びつけて学習に取り組む「主体的な学び」、生徒が他の生徒や教職員、地域や世界の人々と対話をしながら、自分の考えを広げ深める「対話的な学び」、各教科等で得た知識や考え方を活用して課題解決等に向けて探究する「深い学び」の視点で、「どのように学ぶか」という学びの質を重視した教育に取り組む。</p> <p>○「変化や困難に対して柔軟にかつたくましく対応することができる力」を有する生徒に関して 各学科がそれぞれあるいは相互に連携を図りながら、また生徒が地域の方々や職業人など多様な人々と関わりながら、地域の産業や行政と協力し、地域の活性化や課題解決に取り組む本校ならではの、実社会と繋がった特色ある学習活動を拡充する。</p>
学校運営等	<p>○「教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校」に関して 授業・分掌業務・部活動指導等について、同僚性を発揮するとともに、協力・協同して取り組む体制が確立するなど、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し、活気のある明るい組織風土が醸成され、多くの生徒・保護者・職員が学校に満足している。</p>

### 4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<p>&lt;普通科&gt; 高い志を持ち、希望進路の実現に向けて意欲を持って持続的に学習に取り組む生徒</p> <p>&lt;生産経済科&gt; 農業・環境・福祉に関して興味・関心、意欲があり、将来、就農を志す生徒または関連する分野への進学や就職を強く希望する生徒 各種検定や資格取得に意欲がある生徒</p> <p>&lt;環境創造科&gt; 専門分野の学習に興味・関心、意欲があり、明確な進路希望を持ち、その実現に向けて意欲的に学習に取り組む生徒 各種検定や資格取得に意欲がある生徒</p> <p>&lt;普通科、生産経済科、環境創造科&gt; 部活動や生徒会活動または地域との連携等に意欲的に取り組む意志のある生徒</p> <p>&lt;食物調理科&gt; 食物に関する分野で、特に調理、製菓に興味・関心、意欲があり、本校独自の特色ある教育の仕組みを活用して高度な知識・技術を習得し、将来、食に関する分野への進路を強く希望する生徒</p>
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導	<p>・「他者と協力して取り組む問題解決的な学習を取り入れた授業を実施します。</p> <p>・読解力や想像力、思考力、表現力等を養う読書活動を推進します。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・各分掌・教科・学科と定期的に連絡・意見交換を図り、取り組み内容や様子を共有する。</p> <p>・年度末実施のスタディーサポート、基礎診断テストにおいて、80%以上の生徒が教科計GTZ(学力)でC以上となる。</p> <p>・保護者、地域の中高教員を対象とした授業公開を実施し、学校の教育内容を知ってもらう。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・「自ら学びたいことがある」と答えた生徒の割合 70%</p> <p>・平日の家庭での学習時間が一昨年の数値(40.2分)よりも5分増加。</p>	<p>・「自ら学んでいるまたは自ら学びたいことがある」と答えた生徒の割合はどの学年も約75%であった。また、学年が進行するにつれて「実際に自ら学んでいる」生徒の割合が増加している。</p> <p>・平日の家庭学習時間は平均32分であり、昨年よりは若干増加したが、一昨年の数値よりは減少した。また、試験期間中の自宅学習時間は昨年より20分ほど増加した。</p>	◎
生活指導 (生徒指導)	<p>・基本的生活習慣の形成と規範意識・公共心を育む指導・支援を行います。</p> <p>・非行やいじめなど問題行動の未然防止と早期発見の取り組みを行います。</p> <p>・通学マナーや交通ルールを守る意識及び態度を向上させ、交通事故防止を図る取り組みを行います。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・遅刻防止、交通安全、身だしなみ指導を兼ねた朝の挨拶運動を学校として月2回以上実施する。また学期に1回以上強化週間を設け、遅刻防止、交通安全(ヘルメット着用の呼びかけ)、挨拶の習慣化を図る。</p> <p>・遅刻生徒の人数を把握し、各学期5回以上となった生徒に、事情の確認と保護者への連絡、連携して生活習慣の改善に努める。</p> <p>・公共の場でのマナーやルールについて共通認識を図る目的で、HR連絡を毎月2回以上発行する。</p> <p>・各関係機関の講演会等を学期に1回以上実施し、交通事故・諸問題の加害者・被害者とならないための知識を身につけさせ、未然防止の意識を養う。</p> <p>・各学年で年間2回以上いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応に努める。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・正当な理由無く5回以上遅刻した生徒の人数各学期5人以下。指導した生徒が遅刻改善100%(次学期の遅刻数5回以下)</p> <p>・生徒が関係する交通事故の件数昨年度以下(10件)</p> <p>・問題行動の件数昨年度以下(16件)</p> <p>・「いじめ」に対する意識と認識する力の向上</p>	<p>・4月は全ての授業日5名ずつ、5月以降は月3回2名ずつ割当て、8時~8時25分の間、通学路の危険箇所や正門で交通安全・身だしなみ・挨拶の習慣化をめざした声かけ運動を実施。</p> <p>・身だしなみ強化週間を1・2学期は2回、3学期は1回実施。</p> <p>・ヘルメット着用の呼びかけとし、入学予定者登校日に着用を促す時間を設定。</p> <p>・全学年対象で1学期「交通安全講話」を実施。</p> <p>【結果】</p> <p>・遅刻について正当な理由無く各学期5回以上の生徒は1学期1名、2学期3名、3学期0名。次学期に改善した生徒は2名、残り1名は1学期から遅刻改善に至らなかった。</p> <p>・生徒が関係する交通事故件数9件。昨年度をわずかに下回ったが、自転車のヘルメット着用数は1・2年生9名、3年生0名。自転車登録生徒343名、ヘルメット着用率は2.6%に留まっ</p>	※

<p>(生徒会)</p>	<p>生徒会行事は、生徒が考え、行動し、自分たちで作り上げることができるようにします。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭、文化祭、クラスマッチ等の学校行事に向けて週1回の生徒会執行委員での話し合いの時間をもち、規律を守りながらも生徒が楽しめる企画を考え取り組む。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各生徒会行事の生徒満足度 90%以上</li> </ul>	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HR連絡を 39回発行し、ルール徹底・交通安全・持ち物の管理・犯罪被害情報等注意喚起を行った。</li> <li>・全学年対象で2学期「薬物乱用防止講話」「ネットトラブル防止講話」を実施した。</li> </ul> <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動の件数25件。昨年度から1.56倍と増加。関係生徒数 48名。</li> <li>内 9 月以降 1 年生の関係生徒数 35 名総数の72.9%を占めた。</li> <li>・1,2 学期に全学年を対象にいじめアンケートを実施した。回答率は1学期40%、2 学期28%と低かったものの、その補完策として保健室が困り事等の相談窓口を毎週 web アンケート形式で実施してくれている。</li> </ul> <p>【生徒会 結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会行事を自分たちで作り上げることを目標に放課後に残って企画案を出しあった。</li> <li>・体育祭・クラスマッチ・文化祭等の企画案は多く出たが思い通りのものにはならなかった。</li> <li>・前期クラスマッチは雨天で競技が変更になり、上級生は少し不満が残ったようだ。満足度は、3年生86.6%・2年生は84.3%。</li> </ul>	
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3 年生全員の進路希望実現を目指します。</li> <li>・生徒の主体性を涵養し、生徒自身が能動的に進路実現を果たせるよう、3 年間を通したキャリア教育の充実を図ります。</li> <li>・保護者への進路情報発信に務めます。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査に基づいた生徒が希望する企業との情報交換 100%</li> <li>・入試情報の収集と共有</li> <li>・就職講話、総合型選抜・学校推薦型選抜対策講座の実施年 2 回</li> <li>・総合的な探究の時間、LHR 等を活用した進路指導の実施年1回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の希望する企業との情報交換は 100%行えた。学校斡旋を希望した就職希望者全員の内定が得られた。</li> <li>・推薦入試における面接 指導、出願指導などを行った。</li> <li>・地元の大学、短大の出前授業、看護医療ガイダンス、歯科インターシップ、学年別の進路ガイダンスを通し、生徒の進学への意識を高めた。</li> <li>・外部テストを利用し、英・</li> </ul>	

	<p>・進路ガイダンスの実施。(出前授業年 2 回以上、進路ガイダンス各学年1回以上、看護医療ガイダンス年 1 回)</p> <p>・1, 2 学年普通科の全員模試:年 2 回以上</p> <p>・1, 2 学年専門科の全員模試:年 2 回以上</p> <p>・スタディサプリー希望者の活用(普通科)</p> <p>・進路だより等での情報発信:各学期 1 回以上</p> <p>・総務部や学科と連携した保護者会の実施、参加 学科保護者会への参加:1 回以上</p> <p>・保護者向けの進路情報の発信</p> <p>【成果指標】</p> <p>・3 年生全員の希望進路実現</p> <p>・5 年後 10 年後 20 年後の自分の姿を意識していると回答する生徒の割合が学年進行で増加</p> <p>・希望進路実現のための流れが理解できたとする保護者の割合 70%以上</p>	<p>数・国の基礎学力の充実に力を入れた。</p> <p>・1 年生普通科環境創造科全員と 3 年生の希望者がスタディサプリーに登録し、主に自学で活用した。</p> <p>・Classroom を利用し、進路情報を発信した。</p> <p>・5 年後 10 年後 20 年後の自分の姿を意識していると回答した生徒の割合は 2 年 66.3%(0.4%増)、3 年 76.4%(0.3%増)という結果だった。</p> <p>・3 学年の保護者会で就職進学についての説明を行った。進学にかかる費用や奨学金などのマネープラン講演を行った。</p> <p>・希望進路実現のための流れが理解できたとする保護者 77%。</p>	
<p>保健指導</p>	<p>・健康上の課題を自己認識し、生涯にわたってより健康的な生活を送るための実践力を身につけるよう、適切な援助や啓発を行ない、学習の機会を提供します。</p> <p>・美化衛生に対する意識を向上させ、校内美化を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・保健だよりを発行し、正しい知識の周知や生活習慣の改善を図る。</p> <p>・学期毎のカウンセラーだより発行を通じて、校内の教育相談体制の周知と、ヘルスカウンセリングの充実に努める。</p> <p>・各学期初めと終わりの大掃除を実施し、毎日の掃除でのゴミ分別の指導を通じて、美化・衛生意識の向上と校内美化環境の維持・改善に努める。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・規則正しい生活を心がけ、正しい知識が身についたと回答する生徒 70%以上</p> <p>・ゴミ分別の正しい知識の習得、実施 100%</p> <p>・校内の掃除が行き届いていると回答する生徒90%以上</p>	<p>・全体には保健だよりを中心に呼びかけ、来室した生徒にはきめ細かく課題を改善する指導を行った。</p> <p>・美化活動には例年になく、道具にこだわり、生徒達のやる気を引き出した。</p> <p>・保健だよりを季節、行事ごとに発行し生徒達への啓発を行った。</p> <p>・学期ごとにカウンセラーだよりを発行し、適切に教育相談を行うことができた。</p> <p>・大掃除の実施を計画的に行い、校内美化環境の改善に努めた。</p> <p>・成果指標については、おおよその目標は達成できたと考えている。ごみの分別に関しては、昨年より大幅に改善された。</p>	<p>※</p>
<p>人権教育</p>	<p>自分の人権と他者の人権を守るための実践行動ができる力を持つ生徒の育成に努めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・人権フィールドワークと事前学習会の実施</p> <p>・人権委員による文化祭展示の実施</p> <p>・校内職員研修会の実施 1 回</p> <p>・人権講演会の実施 1 回</p> <p>・人権 LHR の実施3回</p>	<p>・活動指標についてはすべて達成することができた。特に人権フィールドワークと事前学習での学びを文化祭展示につなげ、その内容を校内外で発表する機会が持てた。一年を通して「平和と人権」というテーマを深く</p>	

	<p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にはよいところがあると感じている生徒80%以上</li> <li>・自身が発する言葉について意識をしていると回答する生徒80%以上</li> <li>・卒業アンケート時の差別的な場面に出会ったときの「何もしなかった」の回答について、前年度 51%から30%以下への減少</li> </ul>	<p>学ぶことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標について、自分にはよいところがあると感じている生徒は 82%、自分が発する言葉を意識していると答えた生徒は 97%で目標を達成することができた一方、卒業アンケート時の差別的な場面に出会ったときに「何もしなかった」回答は 60%であり、前年度より増加してしまった。今後、具体的な行動とは何かを考え行動につなげる取り組みをしていきたい。</li> </ul>	
普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣他校普通科との差別化を図ります。</li> <li>・卒業後の進路について視野を広げて考えられる環境づくりに務めます。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間(DCT)では、町に一つの地域密着型の学校として地域と結びついた活動を中心に設定する。</li> <li>・総合的な探究の時間(DCT)では、4つの学科が1つの校舎に併存する高校として学科横断型の取組を進める。</li> <li>・進路検討のための体験活動や説明会等の機会を増やす。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期選抜における普通科志望者が定員に対して100%以上</li> <li>・総合的な探究の時間において、年度末の振り返りアンケートで「多気町に愛着を感じる機会が増えた」「自分と違う学科の生徒との交流を深めることができた」と答える生徒が 80%以上</li> <li>・すべての普通科生徒が、卒業時に本校普通科ならではの取組を文章化できる</li> <li>・すべての普通科教員が、本校普通科の魅力を言語化できる</li> </ul>	<p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月調査における普通科志願者数は102名(定員の127.5%)、前期選抜受験者は92名(3.83倍)と、普通科2クラス体制になってから最も希望者数が多い。</li> <li>・地域連携を主な取組とした2年生の総合的な探究の時間において、振り返りアンケートの結果、多気町に「親しみを感じるようになった」「どちらかといえば感じるようになった」と答えた生徒が91%と非常に高かった。</li> <li>・他学科との連携を主な取組とした1年生の総合的な探究の時間において、振り返りアンケートの結果、他学科との連携に何かしらのメリットがあったと答えた生徒が95%以上となった。</li> </ul>	
専門教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得や各種大会・発表会への出場を推進し、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図ります。</li> <li>・他教科・他学科・地域との相互連携を図り、地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指します。</li> <li>・外部講師による生徒・職員向け研修会を実施し、専門性の向上を図ります。</li> <li>・日々進化する食産業の知識や技術、環境等に深い関心を持ち、校内外の研修の充実を図ります。(食物調理)</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格の丁寧な案内と補習等のサポート</li> <li>・積極的に農業クラブ活動や家庭クラブ活動、発表会に参加</li> <li>・他教科・他学科・地域との連携</li> </ul>	<p><b>【生産経済科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本物との出会いの機会は、複数回実施した。松阪牛の但馬研修、削蹄見学会等で畜産農家や獣医師に直接指導をしていただいた。フラワーアレンジメント、プリザーブドフラワー等の花に係る研修を地域の園芸店に指導していただいた。伊勢いもに関しては、地域企業と連携して共同研究を行っており、継続した指導をして</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門の研修を受ける機会を設けて高度な知識・技術を身につける</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本物との出会いの機会、各科年3回以上</li> <li>・他教科・他学科・地域との連携の実施、各科年3回以上</li> <li>・資格取得者総数165人以上（生産経済）</li> <li>・農業クラブ競技会、発表会等で総数10以上の受賞（生産経済）</li> <li>・農業関連への進路先4名以上（生産経済科）（環境創造科）</li> <li>・測量士合格5名以上・測量士補試験合格40名以上</li> <li>・2級土木施工管理技術補合格35名以上（環境創造科）</li> <li>・農業クラブ平板測量競技大会で全国大会出場（環境創造科）</li> <li>・外部講師による生徒・職員の研修会の実施 年3回以上</li> <li>・他教科・他学科・地域との連携の実施 年3回以上（食物調理科）</li> <li>・資格取得の推進、コンクールへの積極的参加（一人1回以上）（食物調理科）</li> </ul>	<p>いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他学科との連携では、食物調理科とうまいもん甲子園全国大会に出場して特別賞を受賞した。東海・三重県農業クラブ事務局として食物調理科と交流実習を行った。</li> <li>・資格取得者総数は2月の検定結果待ちで約160人の見込みである。</li> <li>・みどり単独学生チャレンジ全国大会出場や26年ぶりの多気町肉牛共進会での優秀賞1席など競技会・発表会等で目標とした10個の受賞を果たした。（2個は3月受賞予定）</li> <li>・農業関連への進路先は3名であった。</li> <li>・外部講師による研修会は、高度化事業や先進地見学事業等を利用して複数回実施した。</li> </ul> <p><b>【環境創造科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・測量士・測量士補、2級土木施工管理技士補の国家資格取得に向けて放課後補習も含めて積極的に行った。生産経済科と協力し、危険物取扱者、小型車両系建設機械の講習など、資格取得を積極的に案内できた</li> <li>・公務員補習において、数学・物理の分野について、普通教科の担当者にご協力いただいた</li> <li>・現場見学会、各省庁や市役所などにおける業務説明会、職場体験などに参加した</li> <li>・測量士5名、測量士補35名に合格</li> <li>・2級土木施工管理技士補30に名合格</li> <li>・平板測量競技全国大会出場</li> </ul> <p><b>【食物調理科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他学科との連携では、生産経済科とうまいもん甲子園全国大会に出場して特別賞を受賞した。また、生産経済</li> </ul>	
--	--	--	--

		<p>科が担当している東海・三重県農業クラブ事務局の行事に協力。参加生徒たちと交流実習を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクールでは、スイーツ甲子園福島チャレンジカップ大会、シーフードコンクール、WASYOKU グランプリなど11のコンクールに出場した。</li> <li>・資格取得では、製菓衛生師試験 9 名合格。食物調理検定 1 級 24 名合格。サービス接遇検定 15 名合格。</li> <li>・地域連携では、射和小学校、特別支援学校との交流実習 3 回。そのほか地域イベントへの参加や料理教室の実施など幅広く活動をおこなった。</li> </ul>	
<b>改善課題</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の生徒ではあるが、遅刻、身だしなみ面で指導が必要である。</li> <li>・自転車運転時のヘルメット着用率が低い。</li> <li>・問題行動の件数が昨年度より増加。(関係生徒の7割超が一年生)</li> <li>・卒業アンケート時の差別的な場面に出会ったときに「何もなかった」という回答が増加した。</li> <li>・本校が大切にしている DCT「総合的な探究の時間」について、学校が生徒につけさせたい力は確実につつあるが、一方で本時の目的・意義を感じられていない生徒が半数いる。生徒に目的・意義を伝えきれていない。</li> </ul>			

## (2)学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	<p>計画的な校内研修の実施により、教職員の資質能力を向上させるとともに、同僚性を育みます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、地域の中高教員を対象とした授業公開</li> <li>・ICT 活用などに関わる研修を年2回</li> <li>・校内人権研修会、校外人権研修会とも年1回以上参加</li> <li>・コンプライアンス研修を学期に1回以上</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒実態調査で「各教科の授業が分かりやすいか」に対し、肯定的解答が80%以上</li> <li>・教職員による不適切事案の発生0件</li> </ul>	<p>・教科・科目によりばらつきが大きいものの、おおむね60%～70%の生徒が肯定的回答をしている。わかる授業のために、教職員の授業力向上が引き続き課題である。</p>	※
チームワークの向上	<p>分掌・学年・学科を越えた情報共有を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有の仕組みを見直します</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場内のコミュニケーションが図れていると回答する職員80%以上</li> </ul>	<p>・新たな情報共有手段を導入したことで、タイムリーな職員への情報発信が可能となった。</p>	

<b>情報提供による信頼の構築</b>	本校の特色ある学びを積極的に発信します <b>【活動指標】</b> ・ホームページの更新 月2回以上 ・報道機関等への情報提供 年20件以上 ・学校見学会等の実施 年5回以上 <b>【成果指標】</b> ・学校の様子がわかると回答する保護者の割合70% ・募集定員の充足率 100%	・タイムリーなホームページの更新に努めた。また、学校案内パンフレットの見直しを行なうとともに、本校の学びの特色や魅力について、中学校、地域関係者、報道各社等への積極的に情報発信した。 ・Instagram を開設したことで、これまでより更に多くの人に学校PR ができた。 ・各種PR を行った結果、入学者選抜における本校への志願者は、昨年と比較するとかなり増加した。	※
<b>働きやすい職場環境づくり</b>	健康で働きやすい職場環境づくりのために、総勤務時間の縮減に取り組みます。 <b>【活動指標】</b> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 80%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 95%以上 ・放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 90%以上 <b>【成果指標】</b> ・時間外在校等時間が年 360 時間を超える教職員数 0 人 ・時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員の延べ人数 0 人 ・1 人当たりの月平均時間外在校等時間 30 時間以下 ・1 人当たりの年間休暇取得日数 10 日以上	・設定した日に定時退校できた教職員の割合: 93.6% (R5 87%) ・予定通り休養日を設定できた部活動の割合: 98.4% (R5 98.4%) ・会議時間 60 分以内の実施率: 74.5% (R5 70.9%) ・年 360 時間を超える人数: 18 人 (R5 18人) ・月 45 時間を超える人数: 12.8 人/月 (R5 12.3%) ・1人当たりの月平均時間外労働(全職種平均): 24.0 時間 (R5 26.5%)	◎
<b>改善課題</b>			
・「わかる授業」のための職員の授業力向上。 ・全体としては時間外労働が減ったが、同じ教員の過重労働が改善されていない。			

## 6 学校関係者評価

<b>明らかになった改善課題と次への取組方向</b>	・「総合的な探究の時間」の目的が保護者や生徒に浸透しきれていないのではないか。 ・生徒、保護者、職員にとっての情報受信手段が増えた。そのため、複数の媒体を確認する必要がある。 ・Instagram での情報発信について、担当職員の負担につながらないようにしてもらいたい。 ・生徒の命をまもるためにもヘルメットの着用を浸透されたい。
----------------------------	--

## 7 次年度に向けた改善策

<b>教育活動についての改善策</b>	・「総合的な探究の時間」の目的が保護者や生徒に浸透しきれていないのではないか。 ⇒年度当初と年度末だけでなく、定期的(1 学期に 1 回程度)に活動を振り返る機会を設ける。活動を振り返る際には目的や意義、これまでの活動で自己にどのような変容があったのか自覚できるようにする。また、担当する教員が探究活動の効果を実感として理解できるよう、教員間の活動のフィードバックを積極的に行う。 ・一部の生徒ではあるが、遅刻、身だしなみ面で指導が必要である。
---------------------	--

	<p>⇒教職員間で一致した指導体制の構築。</p> <p>⇒身だしなみ強化週間の増加。</p> <p>・自転車運転時のヘルメット着用率が低い。</p> <p>⇒令和7年度入学予定者登校日(保護者同伴)の際に、短時間であるが JAF 三重県支部にヘルメットの重要性を訴えてもらい、関連動画も上映してもらうことで、ヘルメット購入・着用促進につなげたい。当日物品販売の一角にヘルメットが購入できるブースも3年目になるが、継続して設置する。</p> <p>⇒全校生徒を対象として交通安全講話を継続する。(令和7年度は交通事故被害者遺族会の講演を予定)</p> <p>・問題行動の件数が昨年度より増加。(関係生徒の7割超が一年生)</p> <p>⇒問題行動を起こさせない未然防止指導の強化。具体的には、時期や内容を絞ったHR 連絡の配布。臨時的な学年集会の積極的な実施。また学校全体として全校集会や校長訓話の実施。</p> <p>・「わかる授業」のための職員の授業力向上。</p> <p>⇒授業公開週間などを利用し、教員間の授業見学を積極的に行う。それぞれの授業で振り返りアンケートなどをしてもらい、今後の指導に役立てる。</p> <p>また、生徒へは家庭での学習時間を増加させるための取り組みを行う。</p> <p>・卒業アンケート時の差別的な場面に出会ったときに「何もしなかった」という回答が増加した。</p> <p>⇒差別的な場面に出会ったときに行動できる生徒を育てることを目標に人権教育を推進する。その際、生徒たちに「行動するとはどういうことなのか」を考えさせ、事象に応じた具体的な行動の例を出し合い、共有する取り組みを行う。</p> <p>・</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>・生徒、保護者、職員にとって、情報受信手段が増えたことで、複数の媒体を確認してもらう必要がある。</p> <p>⇒学校からの通知について、目的別に使用する媒体を明確化する。</p> <p>・卒業アンケート時の差別的な場面に出会ったときに「何もしなかった」という回答が増加した。</p> <p>⇒まずは教員が「具体的に行動することとはどういうことなのか」を考え行動し、その姿を見せながら生徒たちに伝えていくことが必要である。そういった視点・目標をもった教員研修を企画・実施する。</p> <p>・Instagram の投稿数を増加させ、更なる学校 PR を図りつつ、一方で担当職員の負担軽減を図る。</p> <p>⇒今年度より多くの職員が、さまざまな視点で投稿できる情報を探し投稿数を増加させることにより、さらなる学校の魅力発信を行う。記事と写真を提供する職員が自ら文章を作成し写真を添えて担当職員に提供することで、担当職員の負担軽減につなげる。</p> <p>・全体としては時間外労働が減ったが、同じ教員の過重労働が改善されていない。</p> <p>⇒業務の主担当を分掌内だけでなく、職員全体に見える化することで、責任の所在を明確化する。誰もが担当できるよう、マニュアル化をすすめる。行事が終わり次第振り返りを行い、次年度に向け改善すべきところを改善しておく。</p>